

平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 59人

② 算数 59人

5 留意事項

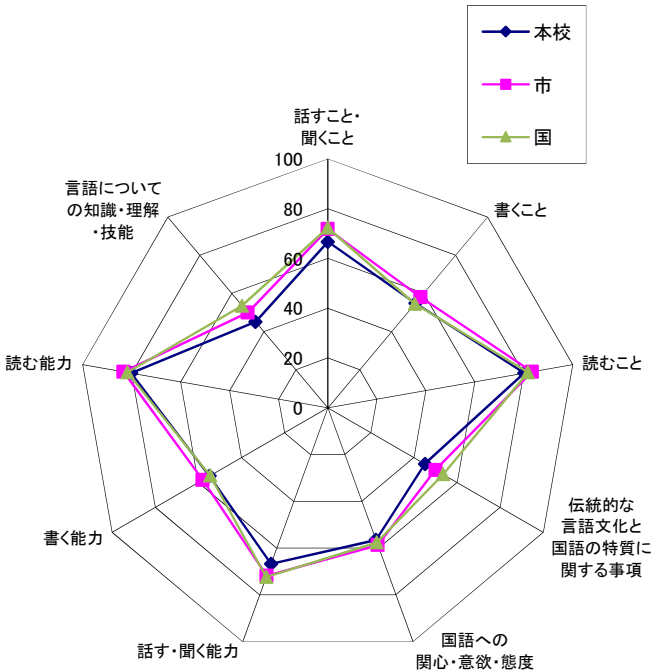
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	66.7	71.8	72.3
	書くこと	54.8	58.0	54.5
	読むこと	80.2	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	45.1	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	56.5	58.7	57.6
	話す・聞く能力	66.7	71.8	72.3
	書く能力	54.8	58.0	54.5
	読む能力	80.2	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	45.1	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

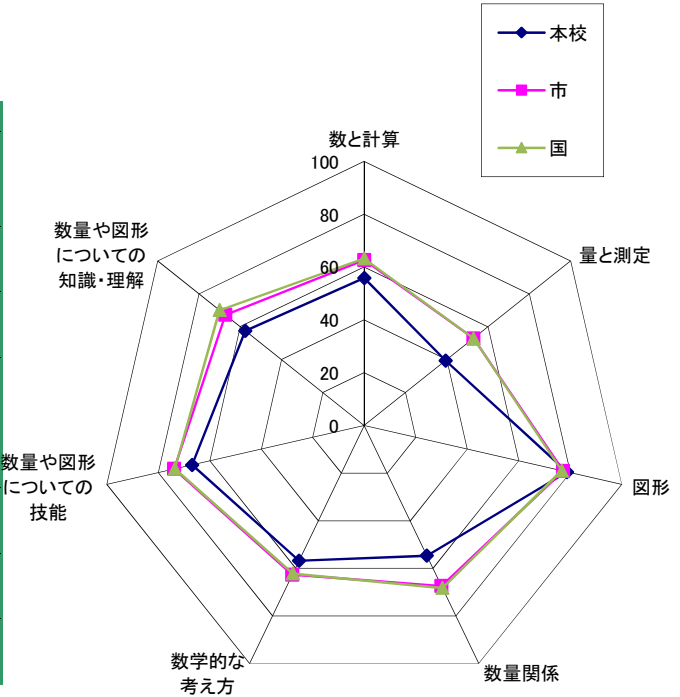
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・国語では、平均正答率66.7%で、市の平均を5.1ポイント下回った。 ●「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」は、正答率59.3%で、国の平均を9.8ポイント下回った。	・各教科等の学習や日常生活において、「話の要点は何か」など、話を聞く観点を示し、基本となる姿勢について指導を継続する。 ・話を聞く際は、必要に応じてメモを取り、相手の話の目的や意図を捉えながら内容を聞き取れるようにする。その上で、聞き取った内容について、自分の考えと比べて共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめられるように指導する。
書くこと	・国語では、平均正答率54.8%で、市の平均を3.2ポイント下回った。 ○「目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にして書く」は37.3%で、国の平均を6.8ポイント上回っている。 ●「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」は、57.6%で国の平均を6.1ポイント下回っている。	・自分で調べたり読み取ったりした内容を明確に伝えるために、情報を取捨選択して書く指導を継続する。 ・事実、感想、意見を区別して書くこと、目的や意図に応じて簡単に書くこと、大切なところは詳しく書くことなど、授業の中で丁寧に指導する。
読むこと	・国語では、平均正答率80.2%で、市の平均を3.1ポイント下回った。 ○「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」は96.6%で、国の平均を6.1ポイント上回った。 ●「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」は71.2%～72.9%で、国の平均を9.3～4.8ポイント下回った。	・短時間で要点を理解することができるようにするために、文章に下線を引いたり、印や記号をつけたりしながら読み取りを工夫できるようにする。 ・様々な文章や、関連図書を紹介するなどして、読書活動の充実を図る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・国語では、平均正答率45.1%で、市の平均を4.9ポイント下回った。 ●「漢字を文の中で正しく使う」、「ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いる」共に、国の平均を8.4ポイント下回った。	・漢字の定着に関しては、書き順や熟語・使う文章や場面を含めて指導し、習熟を図る。 ・ことわざ辞典を学級文庫に置いたり、調べたことわざを発表できるようにしたり、教師がことわざを紹介したりすることで、日常生活の中でことわざに興味をもたせるようにする。

宇都宮市立国本中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	55.9	62.7	63.2
	量と測定	39.5	52.9	52.9
	図形	78.8	77.3	76.7
	数量関係	54.7	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	56.8	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	66.9	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	57.6	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・算数では、平均正答率が55.9%で市の平均を6.8ポイント下回った。 ○「減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようなのかを書く」は、正答率37.3%で、国の平均を5.2ポイント上回った。 ●「 $1800 \div 6$ は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ」は、正答率25.4%で、国の平均を15.6ポイント下回った。	・自分の考えを書く活動を日常的に設定し、友達と説明し合うことで理解を深め、表現力を育てる。 ・問題場面から立式させる際には、数直線やことばの式などをを用いることで、式の意味を理解できるようにする。
量と測定	・算数では、平均正答率が39.5%で市の平均を13.4ポイント下回った。 ●「二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く」は、正答率32.2%で、国の平均を16.6ポイント下回った。	・複数の資料に関連させて考える問題に慣れさせる。算数科以外の社会科などで資料の読み取り方について、補充指導する。
図形	・算数では、平均正答率が78.8%で市の平均を0.5ポイント上回った。 ○「二つの合同な台形を、ずらしたり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしをあわせてつくることのできる形を選ぶ」は、正答率67.8%で、国の平均を7.9ポイント上回った。 ●「長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ」は、正答率89.8%で、国の平均を2.1ポイント下回った。	・図形について指導する際には、実際に操作する活動を取り入れ、図形についての理解を深める。操作活動後に、図形それぞれの特徴を確実におさえ、理解の定着を図る。
数量関係	・算数では、平均正答率が54.7%で市の平均を12.7ポイント下回った。 ●「残り7ボール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことができるかどうかを判断する」は、正答率45.8%で、国の平均を15.9ポイント下回った。	・発展的な問題に挑戦する機会を作り、複雑な文章問題に慣れ親しむようにする。 ・自分の考えを友達や学級全体で話し合う言語活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力などの力を育成する。

宇都宮市立国本中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校のきまりを守っていますか」の肯定回答率は100%で、最高学年としての意識をしっかりと活動していることが感じられる。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の肯定回答率は100%で、いじめゼロを掲げて取り組む学校の体制が児童にも浸透していることが確認できた。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定回答率は100%で、社会の一員として前向きに取り組んでいこうという意欲が感じられる。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」の肯定回答率は100%で、その学習においても国語の力が基盤になると児童が感じていることが分かる。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)では、10分から30分読書する児童が35.6%と一番多く、それ以上は25.4%と少なかった。読書活動の充実に関心を示しているが、「図書館・図書室の利用率」の回答率が週3回利用児童が6.8%と少なく、「読書が好きか」の肯定回答率が71.2%と予想以上に肯定率が低いことが分かった。今後はさらに読書活動が充実し、本が好きな児童が増えるよう、読書の時間や場の設定をする工夫をしていく。

●「新聞を読んでいますか」の肯定回答率は、6.8%ととても低い。図書室に新聞コーナーを設置し、子供新聞も取り入れているが、引き続きコーナーを充実させ、児童が興味をもって読む環境を作っていく。さらに、国語や社会、総合的な学習の時間などで新聞を活用する機会を設けるなどし、世の中の出来事に対して関心が高まるよう指導していく。

●「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」の週1回以上・ほぼ毎日が6.8%と低かった。どの教科においてもICTを利用し、週1回以上の利用がされていたと考えられるが、児童は利用していることへの意識がとても低いことが分かった。何がICTであるのかをきちんと理解させた上で取り入れ、使用していく必要性を感じた。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定回答率が78%であった。全国よりは3.1ポイント高い肯定率となっているが、本校で重点を置いて取り組んでいる指導なので、今後より一層の充実が求められると感じる。

宇都宮市立国本中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・めあての提示と振り返りの場の設定 ・対話的な学びによる知識の定着	・めあての提示により学習への意欲を喚起し、見直しをもてるようにする。また、めあてに対する学びの振り返りを行い、自分の学びのよさに気付けるようにする。 ・少人数グループでの話し合いの場を設け、多面的・多角的なものの見方に気付けるようにし、思考を働かせたうえでの理解を促すようにする。	・「授業の中で、目標が示されている」の肯定回答率は99%、「授業の最後にふり返る活動をよく行っている」と「授業の目標とまとめを書いている」の肯定回答率は95%であった。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定回答率が78%であった。全国よりは3.1ポイント高い肯定率となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・漢字の書き取り ・読解力 ・目に見えないものやことがらを思考すること	・漢字の学習に意欲をもたせる工夫 ・読解力を伸ばすための指導の工夫 ・活用型学習の場を設ける	・漢字検定を行い、意欲的に漢字の学習に取り組めるようにする。 ・指示語を確認し、指示語に対応する文章がどれなのかを確認する ・読書活動を推進する。 ・実践的・体験的な活動を取り入れ、知識や技能の定着を図り、身に付いた力を活用できる問題に触れるようにする。